優勝パレードの来場者はおよそ10万人。栗山監督は「色とりどりの紙吹雪で北海道の大地を埋めたい」という夢を実現した。

部片付けてしまうんですよ！」とパレードの前に話をしてくれましたが、本当でしたね。紙吹雪の中には、応援メッセージが書かれているものもあったので、稲葉（選手）や翔（中田選手）は記念に持ち帰っていました。みんな心の底から喜んでいましたね。

地域の支えがあるからこそ、野球ができる

――札幌ドームで試合をするとき、特にプレーに力を感じます。

監督　そうですね。日本シリーズ中、敵地で2連敗した後、札幌に戻って2連勝できたとき、北海道が私たちに与えてくれる力の大きさを実感しました。試合中、自分の采配に自信が持てないこともあるのですが、札幌の皆さんは、そうした不安な気持ちを勇気に変え、さらに「一歩踏み出せ」と後押しをしてくれる。そんなパワーがあると感じます。

――逆に札幌市民も、ファイターズからパワーをもらっていますよね。

市長　そうですね。「試合の結果どうだった？」と、多くの市民にとって共通の話題になっていることは非常に大きい。人々のつながりを広げるきっかけになっていますね。こうして生み出されたまちの一体感は、札幌をさらに魅力的なまちにする原動力になっていると思いますよ。